

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプA 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	慶應義塾大学
事 業 名	基礎・臨床一体型拠点による次世代トップレベル研究医の育成
事 業 責 任 者	慶應義塾大学医学部長 金井 隆典
事 業 の 概 要	
本邦のサイエンスは十分な潜在性を有するにもかかわらず、国際的な地位が低下しつつある。そのような中、本学は過去 5 年間にトップジャーナルに多数の研究成果を報告し、国際的なプレゼンスを示してきた。このことは、本学が注力してきた基礎・臨床一体型研究拠点による、研究医育成システムの賜物といえる。本事業では、人材育成をさらに推進し、ヒトサンプルを用いたオミックスデータ解析からオルガノイド生物学解析まで、最先端の研究手法を身につけ、世界の一線で活躍できる研究医を育成する。特に、若手医師のクリニカルクエストを大切に、国際的にもユニークな視点からイノベーションを引き起こす仕組みを作り出す。一方、近年の医療行為の高度化・複雑化、医師働き方改革等により医師が研究に割ける時間は著しく制限されつつある。ニューノームに適合しつつも世界に伍する成果を出し続けるため、最適化された教育・研究・職場環境を整備する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○本事業で推進する臨床研究分野が明記されており、豊富なオルガノイドライブラリーの活用により、世界を牽引する優れた研究成果の発信が期待できる。 ○大学院生が多様な基礎医学研究技術を高いレベルで修得できるよう、TA、RA、SA 等の柔軟なプログラムを整備し、予算計上している点は評価できる。 ○高度医療人材の資質について多角的な目標を設定し、研究者・臨床医双方向性カンファレンス、レクチャーシリーズ等目標に対応したプログラム構成となっていることは評価できる。 ○30-50 名程度の高度医療人材育成目標や質の高い研究論文数の目標は、具体的で明確である。 ○臨床実習指導専任者を海外施設などでの FD に参加させたり、教育エフォートの多い教員に職位を与えるインセンティブ創出などの取組は、診療参加型臨床実習の充実に有益である。 ○医学部長を総責任者とし、部門ごとのプロジェクトマネージャーを具体的に明記しており、事業の運営体制が確保できている。 ○人件費や研究継続にかかる費用の支払元について具体的に記載していることに加え、自己負担額を経年的に増加させて事業継続への道筋を意識していることは評価できる。 ●既存の臨床研究推進センターと新設のオープンラボで仕事の分担を明確にすることが望ましい。 ●TA、RA、SA 等のプログラム整備が、現行プログラムをどのように改善するのか不明確である。 ●大学院生を中心にした計画となっているが、医学生に対しては、学部教育の段階から独自の人材養成計画が望まれる。 ●新規採用の事務員や技術職スタッフの教育と並行して、被支援若手研究者の高度研究に費やす時間の 50%以上増加を初年度から達成できるか懸念があり、年度別に段階的な数値目標が望ましい。 ●診療参加型臨床実習の充実にについては、診療チームの中での活動についても目標を設定することが望ましく、臨床実習指導専任者の配置については、最終目標を設定することが望ましい。 ●医師の働き方改革に関して、タスクシフトや代替可能な臨床業務のアウトソース等の取組内容が明確でなく、また、本事業による TA、RA、SA 等のプログラムがどう影響するのか、明らかでない。 ●令和 7 年度～11 年度は毎年度同じ内容であり、具体的な計画を示すことが望ましい。	